

自由民主党衆議院議員【埼玉 3 区（越谷市・草加市）】

きかわだひとし
 少しでも悲しみが癒えるためにも復興を 黄川田仁志

特集 東日本大震災の概要と政府の取り組み

※きかわだひとしを応援する会 入会のご案内など

きかわだステーション

第 19 号

衆議院議員黄川田仁志事務所発行 電話 048-933-0591

自立と誇りある
 日本をつくります

地域の皆様と共に



～少しでも悲しみが癒えるためにも復興を～

自由民主党衆議院議員の黄川田仁志です。

東日本大震災から 2 年が経ちました。一時から比べれば、被災地の現状を伝える報道も格段に減り、あたかも復興が進んでいるかのような錯覚に陥りますが、被災地では、非常に厳しい状況が続いています。

自民党青年局（45 歳以下の国会議員全員が所属する）では、小泉進次郎局長を中心に、継続して、被災地の視察や支援を行っています。私は、その青年局の活動で、2 月に福島県内の被災地を訪問させていただきました。

警戒区域には、津波によって流されてきた車やガレキが未だに放置されています。そして、福島第一原発敷地内では、収束作業の過程で発生する放射能汚染水を保管するタンクがいつくも建てられ、今後も増え続ける汚染水をどのように処理するのか、現場の皆さんは大変な苦心をされていました。

震災直後とは違う、新たな厳しい状況が多く発生していることを目の当たりにし、1 日も早い復興に向け、政治が覚悟を持って全力で取り組まなければならないと、改めて痛感した次第です。

福島第一原発周辺の地域では、警戒区域に指定されたことや事故の影響によって、住民の皆さんは、仮設住宅などへの避難、他の自治体への転居を余儀なくされています。被災者と直接お話させていただく機会がありましたが、震災前の普通の暮らしに戻りたいと言う切実な思いが直に伝ってきて、何ともやり切れなく、歯がゆい感情が込み上げてきました。福島県のみならず、他の被災地でも、多くの被災者の方が、本来ならば望まない場所で、2 度目の冬を越しました。

ご家族を亡くされた方、家を流されてしまった方、生まれ育った町に帰ることができない方、仕事を失ってしまった方…。被災者の皆さんが背負った心の「重し」は、私には計り知れない程、辛いものだと思います。しかし、少しでも心が楽になれば、人間には、前を向いて歩いていく力があると、私は信じています。

1 日でも早く元の街の状態に戻すこと。元の仕事に戻れるように、施設や道路などのインフラを整備すること。安全な場所に新しい宅地を造成すること。放射能汚染などにより、元の地域に戻れない、元の仕事に戻れない場合は、新しい地域で、新しい生活をスタートできるよう、全力で支えること。

心の「重し」はそう簡単に取り除くことはできませんが、物理的な環境を整えることで、被災者の心の負担を減らすことができます。被災者の皆さんの生活環境を整えることが、今、政治に求められている最も重要な課題であると私は考えます。

被災地復興なしに、日本を取り戻すことは考えられません。私は、今国会で、東日本大震災復興特別委員会に所属することになりました。これからも、現場に足を運び、被災者の生活の声を直に聴くことを忘れず、責任ある立場の 1 人として、全力で取り組んでいく所存です。

平成 25 年 3 月吉日 自由民主党衆議院議員

黄川田仁志

東日本大震災の概要と政府の取り組み

◎現在把握されている被災状況

東日本大震災は、我が国の**観測史上最大規模の地震**（マグニチュード9.0）、世界的にも1900年以降4番目の規模の地震でした。被害者数等は下記表1のとおりで、甚大な被害であったことが改めて確認できます。

さらに、震災発生直後の**避難者の数は約47万人**にもおよび、**現在（2013.2.7）でも、約31万5千人の方が避難生活を余儀なくされています。**（表2）

避難生活者は、全国47都道府県、1200以上の市区町村に所在しており、多くは仮設住宅・公営住宅等に入居されている他、親族・知人宅に避難している方もいらっしゃいます。埼玉県加須市には、福島県双葉町から避難されてきた方たちが、現在も約140名ほど、旧埼玉県立騎西高校内で生活されています。

表1 東日本大震災 被害状況(2012.12.26 現在) ※復興庁資料より

○人的被害		○建築物被害	
死亡	15,879 名	全壊	129,724 戸
行方不明	2,712 名	半壊	267,666 戸
負傷者	6,123 名	一部破損	731,680 戸
震災関連死	2,303 名		

※震災関連死は9.30現在。震災による負傷の悪化等により亡くなられた方

表2 全国の避難者等の数(2013.2.15 現在)

※復興庁資料より

全国の避難者などの数	約31万5千人
うち避難所にある人	139人
うち住宅等に入居済みの人	約30万人

◎新たな取り組み課題が発生

被災者の多くが仮設住宅等で生活する今、阪神大震災時にも問題になった、**コミュニティの弱体化**や、**被災者の孤立**が課題となっています。復興庁は平成25年度予算で対応する方針ですが、ボランティア等の協力も不可欠です。まだ被災地以外に住む私たちにもできることがあります。

◎生活環境の整備が心の復興にもつながる

インフラ整備については、ライフライン等の応急的な復旧はほぼ完了していますが、本格復旧・復興では、課題が山積しています。生活インフラでは、**水道施設の本格復旧**が完了した事業数の割合が、未だ46%となっており、1日も早い対応が必要です。また、**災害廃棄物の処理**については、約80%が完了していない他、**被災地の宅地造成**はほぼ手つかずの状態です。1日でも早く、元の生活環境を取り戻すためにも、これらの事業を速やかに進める必要があります。

◎福島県の状況と課題

復興庁によると2012年12月11日現在、**福島県内避難指示区域等からの避難者数は約11万人**で、福島県内への避難者数は約9.8万人、福島県外への避難者数は約5.9万人となっています。他地域と比較して、避難期間が長期に及ぶ避難者が多く、新たな生活拠点の構築に係る取り組みが急務です。政府は、年明けの復興推進会議において、福島対応の抜本強化のため、福島に「福島復興再生当局を設置」、東京に「福島復興再生総括本部」を置き、両組織のトップを復興大臣として、「福島・東京2本社会体制」で復興に取り組む方針を決めました。これまでの政治主導のように、**組織強化のみに終わらず、しっかりと実績が伴うよう、チェック**しなければなりません。

～一緒に日本の政治を考え、行動してみませんか？～

きかわだひとしを応援する会（後援会）入会のご案内

きかわだひとしの政治理念及び活動に共感し、応援していただける方を募集しております。越谷市または草加市にお住まいの方なら、どなたでもご入会いただけます。**入会金・年会費は不要**です。会員の皆様には、活動報告等をお届けします。入会を希望される方は、恐れ入りますが、下記までご連絡いただきますようお願い申し上げます。



一緒に「自立」と「誇り」ある日本を創ろう！ **きかわだひとしを応援する会**

〒340-0052 埼玉県草加市金明町1-1 中野マンション102 Tel 048-933-0591 Fax 048-933-0597

Mail : info@kikawadahitoshi.jp HP : <http://www.kikawadahitoshi.jp>

Blog : <http://ameblo.jp/kikawadahitoshi/> (Ameba 政治家ブログ)

ボランティア大歓迎

きかわだひとしの活動をお手伝いいただける方を募集しております。上記までご連絡願います。

カンパ募集しております！

サラリーマン出身のきかわだひとしの政治活動拡大に向け、皆様からの温かいカンパを募集しております。

きかわだひとしとは？…自民党衆議院議員。東京理科大卒、米メリーランド大学大学院修了。松下政経塾出身。元環境コンサルタント。昭和45年生まれ。趣味は剣道・空手・スキューバダイビング・野球・落語